

新たな流れをどう生かすのか。



3月26日（土）、ついに北海道新幹線が開業。
首都圏と北海道の中継点となる盛岡でも流動人口の増加が期待されます。
そこで、お客様を呼び込む立場と迎える立場それぞれの方に、
誘客の取り組みや今後への期待を伺いました。

北海道がぐっと身近に！

北海道新幹線新青森～新函館北
間の開通によって、盛岡～新函館北
斗間がわずか1時間50分で結ばれま
した。東日本旅客鉄道株式会社（以
下JR東日本）ではすでに多彩な旅
行企画を展開中です。今年7月は、青
森県・函館ステイネーションキャ
ンペーンも開催される予定。東北と
北海道に大きな人の流れが生まれま
す。そのチャンスを生かすために、ど
んな視点が必要なのでしょう。JR
東日本盛岡支社営業部長堀江和王さ
んはこう感じています。

「東北新幹線の八戸開業、新青森開
業に続き、函館へ終点が伸びること
で双方向に新たな流動が生まれます。
幅広いジャンルの観光客に対して、
私たちも観光事業者の皆さんや岩手



JR東日本盛岡支社営業部長堀江和王さん。県内
各地に旅の拠点をどう作るかが大事だと話します

県の方々と一緒に函館にセールスに
行くなど広域エリアでお客様を呼び
込む取り組みをしています。逆に首
都圏に対しては函館や青森と連携し
ながら売り込むといったように、盛
岡が単独でアピールするのではなく
広域でプロモーションしていくこと
が大事だと思っています」。

昨年の北陸新幹線開業においても、
長野市や軽井沢町等が北陸と連携し
沿線全体を売り込むアプローチが効
を奏し、北陸新幹線各駅に相乗効果
が得られた状況でした。各発着地が
どんな取り組みをするかで状況は変
わってくるのでは、と堀江さんは話
します。

「八戸駅開業の際も盛岡が通過駅
になると危惧されました。しかし開
業以降、八戸はもちろん盛岡も来訪
客は増えています。八戸を例にあげ
れば、タクシーで朝市や銭湯をめぐ
る企画、ご当地グルメをアピールす
るなど地域や事業者が一体となって
観光客を取り込むしくみを作りあげ
たことが大きな成果かもしれませ
ん」。

盛岡の玄関口として 皆で清掃活動！

では、盛岡駅前商店街振興組合理
事長の石田和徳さんは北海道新幹線
開業をどう捉えているのでしょうか？

「八戸、青森と新幹線開業の度に盛
岡駅前の集客率も高まっているので、

今回の函館延伸もビッグチャンスです。首都圏の観光客が北海道まで行ったとしても、その復路に対する期待は大きい。盛岡に降り立った方が安心して各店舗を利用できるしくみづくりを進めたいと思っています。例えば、店先に県産食材を使ったメニューやおすすりメニューなどをわかりやすく提示するとか。また、商店街では春以降の毎週月曜日に街の清掃活動を行っており、JRやフェザンの職員の皆さんも沢山参加して下さっています。皆が一緒になって取り組むことで自然におもてなしの気持ちを持てられます。ハンギングバスケットの整備や花壇の植え込み剪定作業など、これまでやってきたことを地道に続けていくことがまず



清掃活動を通じて、盛岡の玄関口としての意識も深まっています

は第一です」。

北海道新幹線開業にわくわくしている石田さん。しっかりと盛岡らしさをアピールし、駅から街へと人を流すしくみを整備することが大事だと話します。

「駅前でも多くの人が集う屋外の場合はこれまで『滝の広場』だけでしたが、盛岡市では平成27年度から2カ年計画で、北上川沿いの木伏緑地の整備を進めています。遊歩道だけでなく舞台も設置され、岩手山を眺めるロケーションもより素晴らしくなります。駅周辺は専門学校生も多く、学生たちを取り込んで街づくりを進めるのも面白い。木伏緑地が盛岡市街への入口としてうまく機能すれば、観光客が歩いて楽しめる起点になるのではないのでしょうか」。

インバウンドへの期待

そして、街への流れを生むきっかけとなるのが旅行企画。JR東日本では、盛岡を起点に岩手全体の魅力に触れる企画を数多く取り揃えています。



盛岡駅前商店街理事長の石田和徳さん。「街にましまりを生む良い機会」と函館延伸に期待します

るようです。桜シーズンに合わせて東北各地を巡るツアーをはじめ、修学旅行、大人の休日、グルメ満喫、そしてインバウンドなどアプローチする客層やテーマは広がっていきます。「函館盛岡間の移動時間短縮によって、今までありえなかった方法論が可能になってきます。その一つが、函館や札幌から日帰りで盛岡のランチを楽しむツアーなど。私たちの役割は地元の皆さまと一緒に、お客様の背中を押すことです」と堀江さん。

一方、駅前で来訪客を受け入れる石田さんたちも客層の変化を日々肌で感じているそうです。実はここ数年、国内のみならず台湾や韓国など海外からの観光客が目に見えて増えているのだとか。

「函館を訪れる海外客数は東北6県を訪れる海外客に相当すると言われていています。北海道新幹線開業によって、そのお客様がシャワー効果で青森や岩手にやってくる可能性は大きいですね。これを機に、メニュー内容や対話の方法について講習会を開くなど、何らかの活動を展開していきたいと思っています」と石田さん。こうした変化を見通し、JR東日本では訪日外国人旅行者向けのリーズナブルな周遊チケット「JR East-South Hokkaido Rail Pass」などの展開や、外国人旅行者の滞在日数に見合った東北の四季や歴史文化、食



JR東日本の旅行企画の一例

を楽しんでいただくための広域観光周遊ルート「日本の奥の院・東北探訪ルート(東北観光推進機構)」のPRや具体的な誘客策も進行中です。「北海道新幹線開業によってお客様の流れも確実に変わります。観光関係者のみならず、地元の事業者の皆さんと一緒にお客様をもてなし、盛岡の良さを共にアピールしていきたい。その取り組みが一過性にならないよう継続的な企画を進めていくことが重要であり、地元の皆さまと一緒に進んでいきたいと考えています」。

堀江さんの言葉に込められるように石田さんは大きく頷き、両者はかたく握手を交わしました。